

# 市場志向型農業振興 —SHEP アプローチ— (普及員)

## Market-Oriented Agriculture Promotion -SHEP Approach- (Extension Officer)

### 案件目標 | Objective

本邦で学んだ市場志向型農業、野菜栽培技術、流通・販売方法および普及手法が帰国報告会等を通じて所属組織・担当地域内で共有される。

Market-oriented agriculture approach, vegetable cultivation, distribution, marketing and extension methods acquired through this program will be shared within participants' organizations and targeted areas.

### 研修概要 | Outline

本コースは、小規模農家が作物を「作ってから売り先を探す」のではなく、「売れるものを作る」というケニアで成果をあげている手法や考え方（SHEPアプローチ）、市場志向型農業の基本的な考え方について学びます。また、市場ニーズに対応した野菜栽培技術、流通・販売方法および普及手法について、講義や視察に加え、演習や圃場実習も取り入れ、帰国後活動を見据えながら実践的に学びます。

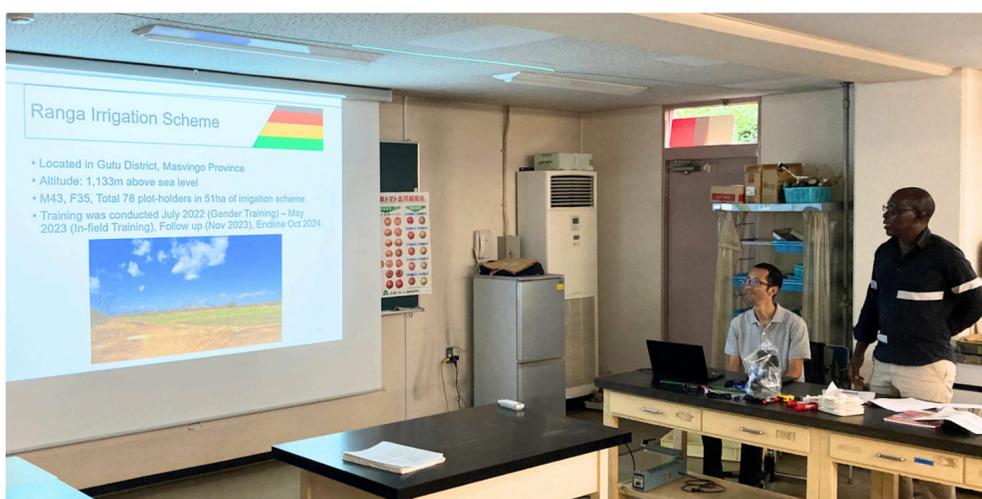
This program provides practical learning of market-oriented agriculture, with a focus on vegetable cultivation techniques, marketing, and extension methods. The program consists of extensive hands-on training, comprising more than 50% of the total curriculum. Through the program in Japan, participants will learn the essence of the SHEP approach through lectures, practice & experiments, and field visits.



収穫したものを市場販売します | Market and distribution in Japan



個別課題について発表します | Presentations on individual project



各国のSHEPアプローチを学びます | Learn SHEP approach in each country



現地で入手可能な材料を使います | Use locally available materials

### 参加国 | Countries

ボツワナ(1) エチオピア(1) ガーナ(1) レソト(1) ナイジェリア(1) スーダン(2) タンザニア(2) ウガンダ(1) ジンバブエ(1) 計11名

Botswana(1) Ethiopia(1) Ghana(1) Lesotho(1) Nigeria(1) Sudan(2) Tanzania(2) Uganda(1) Zimbabwe(1) Total 11 participants



SDGs ゴール2 – このコースは、飢餓・食料安全保障・栄養・農業のうち特に「生産性を向上させ、生産量を増やす」目標に貢献します。

Goal 2: Zero Hunger - This contributes to the goal of “improving productivity and increasing production”.

# 課題別研修「市場志向型農業振興（普及員）」コース

## 2026年 実施要領

### 1. 研修の背景

JICAはケニアとの技術協力において、ビジネスとしての農業による所得向上を目指しながら、農家ひとりひとりの「やる気」を引き出し、自助努力によるさらなる成長を推進するという SHEP (Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion) アプローチを提唱している。この活動を通じて、漫然と作物を栽培する「作って売る」という小規模農家の意識から、市場でどのように農産物が売られているかを事前に把握し、市場が求める商品をつくる「売るために作る」への意識変革を起こしている。

我が国は、アフリカ開発会議（TICAD）を1993年以来国連等と共同開催しており、2013年6月のTICAD・V（第5回アフリカ開発会議）において、日本政府は本研修のテーマである SHEP アプローチをアフリカ広域に推進していくことを表明した。

同アプローチのエッセンスの一部である農家の市場情報活用、農家主体による栽培計画作りの推進、農家の積極性を促す普及／営農支援、元気な女性農家及び農村づくりについては、日本では先進事例がみられる。日本の事例を学習するとともに、各国での状況を共有することで学びや気づきを促せることから、JICAは SHEP アプローチの広域展開に向けて、各国関係者を一堂に集め、本邦研修を実施するものである。

### 2. 研修の概要

#### (1) 研修目標

本邦で学んだ市場志向型農業、野菜栽培技術、流通販売方法および普及手法が帰国報告会等を通じて所属組織・担当地域内で共有される。

#### (2) アウトプット

- 1) 研修員の担当地域における野菜栽培、流通販売方法およびその普及方法における課題が抽出／分析される。
- 2) SHEP アプローチについて要点を理解し、その実践における自身の役割および必要な知識・技術が説明できる。
- 3) 園芸作物（野菜）の市場動向及び流通販売システムを活用する手法を習得する。
- 4) 市場志向型農業における、野菜栽培の有用技術が説明及び実践できる。
- 5) 小規模農民の組織化および農業技術開発・普及システムの要点を理解し、説明できる。
- 6) 日本での学びの取りまとめ及び自国で適用する方法が検討され、その内容がレポートに取りまとめられる。

7) 習得技術および技術レポートやインテリムレポートの内容が、所属組織や担当地域において共有され、共有結果が JICA に対して報告される。

### 3. 本邦研修期間

2026年3月7日～2026年9月19日

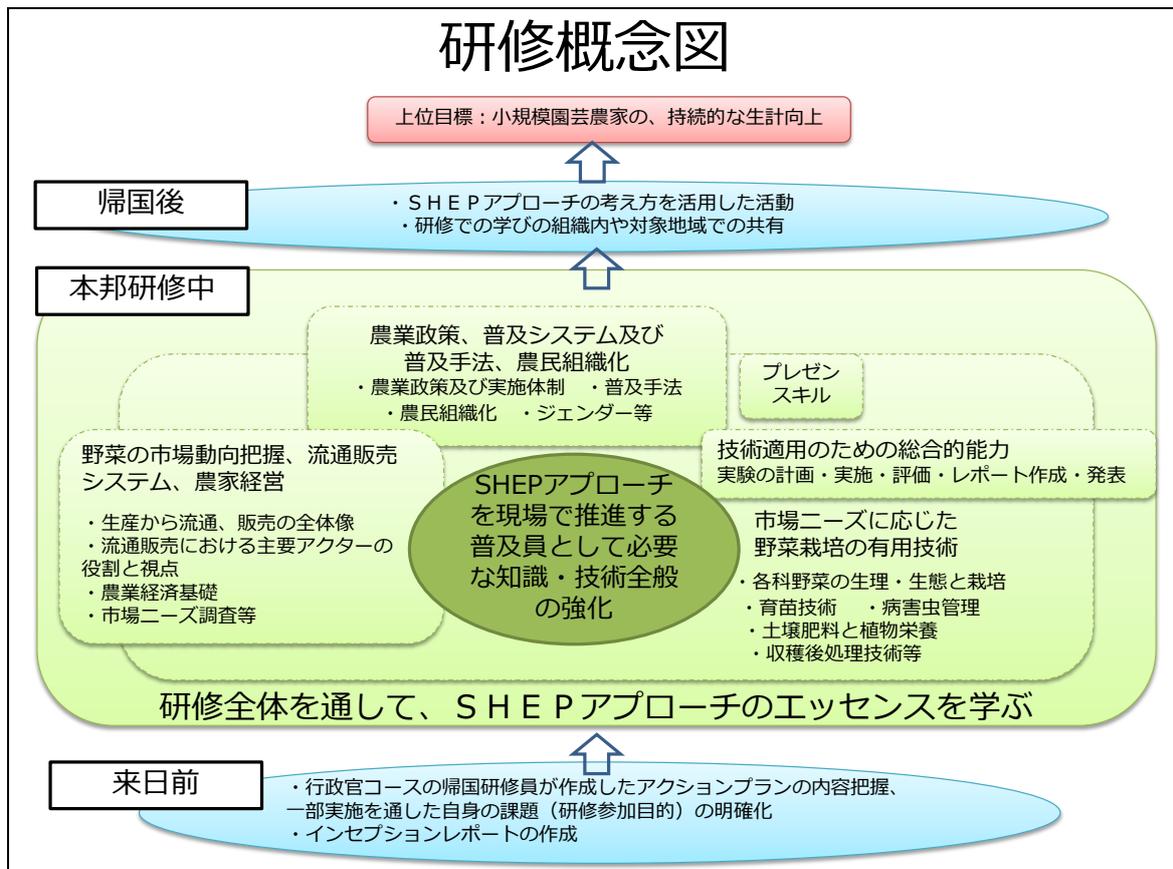
### 4. 研修員

11名（ボツワナ、エチオピア、ガーナ、レソト、ナイジェリア、スーダン、タンザニア、ウガンダ、ジンバブエ）

### 5. 研修実施機関等

研修実施機関： 独立行政法人国際協力機構（JICA）筑波センター

業務委託機関： 一般社団法人海外農業開発協会



# Common Practice/Experiments Schedule 2026 (Tentative)

